亀戸中だより

令和８年１月３０日発行
江東区立亀戸中学校
https://kameido-chu.koto.ed.jp/
発行者　校長　三浦　秀樹

“笑顔と本気で真剣な姿”のある学校

本校教育目標：「思いやりの心をもち、主体的に行動できる人間を育成する」
「探究」　「敬愛」　「挑戦」

一人一台端末利用を通じた「自律」への挑戦

～クロームブックの利用方法について考える～

中・高校生による不適切な動画の SNS への投稿がマスメディアに多く取り上げられています。改めて学校で生徒に配布している一人一台端末の利用方法について考えてみたいと思います。

さて、本校では文部科学省が進める「GIGA スクール構想」、および江東区の「ICT 教育推進指針」に基づき、「正しい使い方を自ら考え、実践する」という方針のもと、学校の教育活動全体で休み時間も含め、タブレット端末利用を推奨してきました。

文部科学省は、端末を「鉛筆や消しゴムと同様の文房具」として日常的に活用することを求めています。また、江東区においても、ICT を単なる知識習得の道具としてだけでなく、創造的な活動や課題解決のために主体的に使いこなす力の育成を重視しています。

ひと昔前は「休み時間は一律に使用させない」というルールの設定について議論されていましたが、今では多くの学校で昼休み等の休み時間の使用は認められています。文部科学省の方針に従うのは当然のことですが、そもそも、禁止ルール設定は、大きな課題が浮かび上がります。教育の本質を考えたとき、「決められた枠組み（禁止）の中でしか自分を律することができないのではないか」という点です。大人が目を光らせて制限をかけることは正しいのでしょうか、中学生という時期は、自らの行動を客観的に見つめ、自己をコントロールする「自律」の精神を養う重要なステージです。

学校という守られた環境の中で「正しく使う練習」をさせ、卒業後の自由なデジタル社会へ送り出すことは、教育機関としての使命だと考えます。

私たちが目指すのは、単に操作が上手な子供を育てることではありません。目指すべきは「デジタル・シティズンシップ（善き使い手としての権利と責任）」を備えた人材の育成です。 将来、彼らが歩む社会は、今以上にデジタルとリアルが融合した世界です。そこでは、誰かに禁止されるから守るのではなく、「今、この場面でこのツールを使うことが適切か」「自分の発信が誰かを傷つけないか」「健康のために今は画面を閉じるべきではないか」と、自分自身で問い続け、判断する力が求められます。

全教育活動での使用を許可することは、「判断の機会」を生徒に提供することを意味します。ときには使いすぎてしまったり、不適切な使い方をしてしまったりする失敗も起きるでしょう。しかし、学校は「失敗から学ぶ場所」です。問題が起きたとき、それを即座に「再禁止」の理由にするのではなく、「どうすればより良く使えたか」を生徒と一緒に考え、アップデートしていくプロセスこそが、生きた学びになると信じています。

保護者の皆様におかれましては、子供たちの将来を見据えた「自律へのステップ」であることをご理解いただければ幸いです。ご家庭においても、ぜひ「今日は学校でどう使ったの？」「どんなことに役立った？」と、お子様との対話を楽しんでいただければと思います。